



第25回 近畿 Venous Forum

日本静脈学会近畿支部 (旧 近畿下肢静脈瘤研究会)

変化し続ける静脈瘤治療

2021.11.06 土

14:00~18:00

※若干変更の可能性がございます

WEBハイブリッド開催予定

※参加方法につきましては、改めて提示致します。

一般財団法人 **住友病院** 14階大講堂

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-20 TEL:06-6443-1261

会長：久保 盾貴

大阪大学医学部 形成外科

一般演題募集

期間：5月下旬～9月上旬

第25回近畿VenousForum開催事務局

E-mail : kinkivenousforum2021@gmail.com

HP : <http://itotak.m78.com/kinki/index.html>



近畿VenousForum
since1996

第25回近畿VenousForum開催事務局

E-mail : kinkivenousforum2021@gmail.com

「血管内塞栓術の現況、中期成績、将来の展望」

今井崇裕¹ 黒瀬満梨奈²

1. 西の京病院 血管外科 2. 西の京病院 看護部

Takahiro Imai¹, Marina Kurose²

1. Department of Vascular Surgery, Nishinokyo Hospital, Nara, Japan

2. Nursing Department, Nishinokyo Hospital, Nara, Japan

抄録

【はじめに】2019年, VenaSealによる下肢静脈瘤治療が保険収載された. この治療は2011年に米国で開始されたが, 国際的にはVariClose, VenaBLOCKといったトルコ製の製品も広く使用され, 手技は多少異なるが薬剤の主成分はn-butyl- cyanoacrylate (NBCA)である. 2017年ロシアでは, 低価格のethyl ether of α -cyanoacrylic acidを主成分としたSulfacrylateが開発された. 薬剤には2種類の可塑剤が追加され, 高い閉塞率と術後炎症反応の軽減が報告されている. 2020年静脈学で血管内塞栓術後3ヶ月の短期戦績を報告したが, 今回1年後の経過を報告する.

【対象】2020年1月~2021年4月に施行した下肢静脈瘤手術1,032件の内訳は血管内焼灼術720件(69.8%), 血管内塞栓術312件(30.2%), ストリッピング術0件であった. 検討は血管内塞栓術を施行した患者を対象とした.

【検討内容】治療成績は以下の3つを検討した. 解剖学的検討は超音波で治療標的血管を評価した. 臨床学的検討はビジュアルアナログスケール(VAS)を使用した術後疼痛, CEAP分類および静脈臨床重症度スコア(VCSS)を使用した重症度, アバディーン静脈瘤質問票(AVVQ)によるQOLを評価. 安全性は術後の有害事象とした.

【結果】再疎通例はなく, 部分開存例は9名であった. Kaplan-Meier Methodによる累積完全閉塞率は97.1%であった. 治療後のVASは 0.6 ± 0.8 であった. VCSSは 3.1 ± 1.7 から, 術後30日で 0.3 ± 0.3 へ改善した($p<0.001$). AVVQは 8.0 ± 9.0 から, 術後30日で 4.8 ± 6.3 へ改善した($p=0.064$). 30名(9.6%)の有害事象が出現した(2020年5月1日現在).

【考察および結語】治療後1年の血管内塞栓術の解剖学的, 臨床学的検討の結果は良好であった. 1週間以上続く重大な合併症は見られなかった. 国内では血管内焼灼術が標準術式であるが, デバイスは多岐に渡り頭打ち感が強く, 国際的動向から血管内塞栓術による治療が広がると思われる.